

いきもの記

Vol.92 2023.11.7

3年3組 下山田 樹

巨大ガニを捕獲！

トゲノコギリガザミ

いつぞやに1ヶ月2回投稿とか言っていた下山田です、どうも。やる気はありましたが、体がついていかなかっただけです、すみません。さて、本題だ。次の日に生物分類技能検定が控えていると言うのにナマズとギバチの餌を取りにこのバカはいつもの川（ウミコオロギと同じ川。Vol.44参照）へエビ取り・魚取りへ出かけた。ハルアキ（いきもの記の鳥担当）も一緒だ。途中、ニゴイのチビ（日淡好きギョリコン大歓喜）やらコトヒキ、メジナと可愛い奴らがウヨウヨいる。別の場所では、クロダイ、スズキにクロサギ（口が下へ伸びるおもしろい魚。鳥にも同名の種がいる数少ない魚）、化け物ウロハゼと、二人でテンションMAXである。ようやく目的のモツゴのいる辺りに着いた。自転車を降り岩場を歩くこと早10歩、もう本当に人生でこんなデカイカニ見たことねえ！（水族館はなし！タカアシガニは反則）ってぐらいでっかいカニが網の届くところにいるではないか！モクズカニのオバケ？なんて頭で考えるより先に網を突っ込んで追い立てる。体がデカイのか、岩の隙間に逃げられず挟まっていた。だから少々手こずったが陸にあげることに成功した。網が重たいったらありやしない。45センチのクロダイを入れた時と同じくらい重かった。それで、ハルアキと2人で大騒ぎである。もうそれはそれは、近くでお酒を飲んでいた兄ちゃんもびっくりの騒ぎよう（カニにびっくりしたかもしれないが）。

そんなこいつは、トゲノコギリガザミである。よくイタリアンレストランなんかでワタリガニの pasta（筆者の好物。これ出されたらニコニコで言うこと聞きますね）に入っている“ガザミ”というお財布に優しいとっても美味しいカニがいるが、その仲間なのだ。が、このノコギリガザミは一杯10,000円を超える高級ガニなのだ。それもそのはず、大きさが桁違い。今回捕まえたものは1kgどころじゃない重さなのだが、どこぞの水族館には2.75キロもある化け物もいらっしやるようだ（ちなみにそれはアミノコギリガザミ）。この仲間の北限は本来浜名湖辺りなのだが、実は某Da〇〇海岸の様に東京湾でも確認されることがたまにある珍しい種なのだ。いわゆる死滅回遊（だけど死ななかつた回遊）なのだろう。今回採取した場所は江戸川区なので、おそらく東京湾内では最北限といったところだ。本来この仲間はマングローブなどの泥底に生息しており、自慢のでっかいハサミで貝などを潰して食べる。だから別名マッドクラブと呼ぶ。ただ、この川は岩場が多くて、引っ付いている貝を剥がしていたのだろう、この個体のツメはボロボロである。ちなみにそのツメの握力は800~1000kgなんて言われている（参考程度にゴリラ600kg程度、チンパンジー300kg程度、ヒトのギネス記録は192kg）。挟まれると指が冗談抜きで潰されるんだとか。試しにその辺のサクラの枝（落ちてる干からびてカッラカラに乾いてるやつ）を挟んでみたのだが、外れない。本当に外れない。そして、折れた。しかも折れてもまだ残った方を持っている。そこから自然に離すまで誇張抜きに2時間以上はかかったと思う。絶対挟まれたくない。それで、よく見るとこのハサミ、左右で大きさが少し違っている。用途によって使うハサミを変えているのだろうか。ゆっくり観察しておこうかな。それにしても、この川は約11年は通っているのだが、このカニは初めて見た。今まで魚だけでも55種（盛ってないですよ？すごくない？）確認したが、一番興奮した気がする。昔から捕まえてみたいカニは、ノコギリガザミ類とアサヒガニとカラッパの仲間だったので、久しぶりにテンションMAXで書いてみたが、どうだったろうか？身近にも超高級な化け物が潜んでいるのである。皆様も探してみたいか？それにしても、イボイワオウギガニといいこのトゲノコギリガザミといい、ハサミ自慢のカニ軍団は目が赤いのが当たり前なのだろうか……それも相まってカッコいいカニだ。全く…いきもの採集は最高だぜ……。



30cmの定規を置いてみた。甲羅の横幅はなんと19cm！右にオオカマキリも写っているので比較してみよう。



トゲノコギリガザミ捕獲時の様子。デカイ！江戸川区の川にて。



顔の拡大。目が赤い。



デカくてゴツイ体。かなり迫力がある。



正面から。ハサミがととても大きい。